

建築士

おおた

秋季号

2018 NO 121



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

01 新役員挨拶	石井鏡成副会長 富部 直副会長
03 インフォメーション（支部便り）	佐伯支部 田邊 正彦
04 紀行文	臼杵支部 佐藤 賢市
06 全国青年委員長会議参加報告	青年委員長 首藤 顕道
08 全建女報告	青年女性委員共同代表 高橋 由美
10 公益事業の成果	大分支部 首藤 顕道 別府支部 小山 秀輝
14 我が街の建築士紹介	大分支部 大下 紘輝 大分支部 真子洋一郎 別府支部 阿部 智樹 別府支部 下嶋 明
16 マイワーク	佐伯支部 長田 孝治 豊後大野支部 高野 幸雄 臼杵支部 板井 祐輔
18 マーボアの旅先日記	会 長 井上 正文
20 マイベストブック	宇佐支部 佐藤 一郎 高田支部 後藤 憲二
21 事務局だより	大分県建築士会事務局



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

別府市西野口町『珈琲信濃屋』

(曳き移転前)

別府支部 新山 俊則

建築士会に思う事



公益社団法人 大分県建築士会

副会長 石井鏡成

建築設計の仕事にかかわり、早43年目になります。建築士の免許を取得して、すぐに士会に入会しました。建築士としての研鑽を積み、建築設計の道をただひたすらに歩いてきました。私は日田の生まれですが、23歳の時に大分市の設計会社に就職し、10年間修行を積みました。自分の責任で生計を立てていきたいと独立をし、現在に至っています。ここまで設計事務所を続けてこれたのも多くの方にご指導、ご支援を頂けたからだと思えます。最初に入社した会社で多くの経験を積ませていただき、独立した後は、自分の責任で建築を造る事の厳しさを知り、建築主と建築を造る事の喜びも共有させていただきました。また地域社会に及ぼす影響も肌で感じる事ができました。

士会では多くの出会いがありました。有田まちづくり塾に、故村松幸彦会長と参加した時に、先生から「設計の仕事も大切だが、それだけでは駄目ですよ。建築士として経験を積み、地域社会に貢献していくことが大切な事です」と言われたことを思い出します。これまで、建築士会の勉強会や活動に積極的に参加をして、職能を高めることを心掛けてきました。そして40才の時に、戸次の町並み保存に出会うこととなります。大分市が「戸次本町街並み環境保全基本構想」の作成を大分支部に委託することになり、私は地元に住んでいると言う事で委員として参加することになりました。大分大学の片岡先生や鈴木先生、建築の行政職員、建築士会会員など多くの方と共に基本構想案の作成に、幸運にもかかわる事ができました。街並み保存の活動が始まり、すでに23年が経ちました。私自身が、戸次本町の朽ちかけていた蔵を保存地区内で、住宅として移築再生しました。地区住民となり、まちづくりにかかわり続けています。建築士会に入っていなかったら、このようなめぐり合わせにはならなかったはずで。人生とは不思議なものです。

建築士会には、行政関係、教職、設計事務所、建設会社等いろんな職種の方がいます。私達は地域のまちづくりや建築などの様々な課題を共有し、皆で議論をし、開かれたより豊かな地域社会の実現に向けて、建築の専門家としての知識を活かし、地域社会に貢献して行く事が大切だと考えます。今年度から副会長を仰せつかり、微力ではありますが、井上会長を支えていきたいと思えます。皆さま宜しくお願いいたします。

副会長就任挨拶



公益社団法人 大分県建築士会

副会長 冨部 直

平成30年度より公益法人大分県建築士会の副会長を引き受けることになりました中津支部の冨部です。2期目の井上正文会長の補佐として勤めてまいります。私は事業委員会を担当することになりました。会員の技術力の向上のための各種研修・講習会開催及び会員の親睦と交流を深める事業を、伊藤憲吾委員長と事業委員会のメンバーとともに、日々の仕事で忙しい会員のための、出来るだけ参加しやすい状況で開催したいと企画をすすめております。また、来年開催される、佐伯での『建築セミナー』では、県下各支部のより多くの会員が集い、研修と親睦・交流・意見交換の機会となることを期待しております。

また、会員以外の建築士にも、研修会・講習会の情報を提供することにより、入会促進になればと思っております。

私が入会したのは、1級建築士となった、平成2年の6月で、28年前です。

当時は、青年部に所属し、支部の青年部活動、ソフトボール大会等に参加しておりました。

平成18年に理事、平成22年に中津支部長の役をさせて頂き、そして、平成24年9月8日中津支部では3回目となる『第26回サマーセミナー in 中津』防災と建築士～みんなで守る、わが家、わがまち～をテーマのもと、中津市耶馬溪で開催しました。7月の九州北部豪雨、度重なる豪雨被害に屈することなく開催にこぎつけ、中津支部はもとより県下各支部の多くの方々にご参加頂き、盛大に開催することが出来ました。皆様のご支援ご協力に感謝申し上げる記念すべき大会となりました

平成28年の熊本・大分地震に於ける支援活動から、平成29年5月には防災委員会を設置、9月の台風18号では被災した津久見での支援活動を実施し、今年の3月には大分県と「災害発生時における住家の被害認定に関する協定書」を締結しており、公益社団法人として、各支部も地域の公益性の高い事業を展開し、地域・業界からも厚い信頼と期待が寄せられる地域に根ざした建築士会となることを期待しております。



県南支部ソフトボール大会開催!

佐伯支部 田邊正彦

5月27日、県南6支部の親睦と交流を目的とした第39回臼杵土木事務所長杯対抗親善ソフトボール大会が行われました。佐賀関、臼杵、津久見、佐伯、豊後大野、竹田の各支部が参加してのトーナメント戦です。今年は持ち回りにより臼杵支部主催で臼杵市総合公園グラウンドにて行われました。梅雨入り前の好天に恵まれ気温も上がり暑い中での開催となりました!

スローピッチと言って、ピッチャーがふわっと遅い球しか投げられないため、経験者でなくとも楽しむことができます。経験者は逆に力んでしまい、打ち損ねることも多いかも!? 私自身は2年ぶり2回目の参加でした。前は日々運動不足な上に助っ人で人数の足りない他チームの試合にも出てへとへとになったのを覚えています。今回は昨年の秋から息子が少年野球を始めたこともあり日頃からキャッチボールや走ったりもしていて前回よりも意気込んでおりましたが、早速アップのキャッチボールで暑さと慣れないボールの大きさに疲れてしまいました…。



試合が始まってみると、先輩の皆さんの元気のいいのには驚きです!やはり建築士の皆さんは日頃から活動的な方が多いためでしょうか、元気ハツラツ

に動いておられました。攻撃、守備とも慣れてきたところに、恒例で第3打席は走塁が逆回りに。通常ランナーは1塁、2塁と走っていきませんが、このときだけは3塁、2塁、1塁と逆方向に走塁します。頭ではわかっている、打った瞬間に忘れてしまい、1塁へ向かって走り出す!ヒット性の当たりを打って得意気に1塁ベースを蹴ったところで、3塁へ送球されアウトに。その度に会場は笑いが起き大盛り上がりでした!

各試合とも好プレーあり、どくりあり、笑いありで楽しく進行していきました。我々が佐伯支部は助っ人の方の力を借りながら決勝まで勝ち上がりましたが、強豪佐賀関支部に敗れ、惜しくも準優勝となりました。佐賀関支部は連覇おめでとうございます。

大会後はグラウンド横の木陰で表彰式と交流会が行われました。賞状や副賞の一つとしてウバメガシの苗をたくさん頂きました。大切に育てたいと思います。交流会ではストラックアウトのイベントもあり、こちらも盛り上がりました。



最後に大会及び交流会を準備運営していただいた臼杵支部の皆様ありがとうございました。暑さの中たくさん準備していただいた飲み物のほか、様々なおもてなしに感謝します。おかげ様で1日を通して大変楽しい時間を過ごすことができました。

サグラダ・ファミリア教会って完成するの？

臼杵支部 佐藤賢市

Hola! 気温が体温を超える毎日ですね、よく食べよく寝て体調管理には気を付けていますか？

さて、まだ肌寒い4月、巨匠アントニオ・ガウディを訪ねて、スペインはバルセロナに行ってきました。

日本での準備期間中、スマホで現地の写真が見られる時代になりましたが、雑誌や教科書で学んだ建物たちに実際に会えると思うとドキドキがとまりません。

初日、到着したバルセロナは、午後3時。タクシーにて市内のホテルへチェックインします。

せっかく来たのですから、少しの時間も無駄にできません。シャワーを浴びて急いで出発です。

まずは、「グエル別邸」あの有名な「ドラゴンの門」へ向かいます。眺めます。写真に収めます、そして触ります。初めて本で読んだとき、触ると手に錆がつかないなんて、考えていたのを思い出しました。

「グエル公園」に到着したのは午後5時を過ぎた頃、まだまだ、たくさんの観光客がいる中で「トカゲの噴水」に挨拶してから、ながいベンチに腰を下ろしてバルセロナに落ちる夕日を眺めます。遠くに、建設中の教会が見えました。まだまだ、明るい午後8時。「サン・パウ病院」の周囲を散策した後、屋外のカフェレストランで軽い夕食をとります。

建設中の教会のライトアップが午後9時からなので、あと数歩歩けば教会にたどり着く場所でおいしいビールを飲みながら時間をつぶす、ぜいたくな時間です。

少し日が沈んだ午後9時。いよいよ本日のメインイベント「サグラダ・ファミリア教会」と最初のエ



ンカウントです。

雨が心配された昼間ですが、夜になり最高に晴れ渡り、満月を背に暗闇に浮かぶ姿に言葉が出ません。圧倒されます。気分はすでに最高潮！調子に乗って深夜のメトロなんかには乗りこみます。「カタルーニャ広場」にある深夜営業中の「ハードロックカフェ」を満喫。またまた、メトロで移動します。ホテルに帰ったのは、午後11時を回っていました。

2日目、午前7時。朝食をおなかいっぱいになるまで食べてから、メトロに乗って「コロンプスの塔」へ、気持ち良い海風に気分も上がります。ランブラス通りを散策後、日本で予約したバウチャーにそって「カサ・ミラ（ラ・パドレラ）」を見学します。

日本語の音声ガイドがあるので勉強不足でも安心です。近くの「カサ・バトリョ」までは、スペインの強い日差しの中を歩いていきます。どちらの建物も住宅なので、中に入ると素晴らしい細工に感動しますが、とても心地よく落ち着きます。



「サン・ジュセップ市場」で昼食を取り、期待に胸が膨らむ「サグラダ・ファミリア教会」の内部見学です。まずはエレベーターに乗り塔の最上階へ到着、遠くに昨日立ち寄った公園が見えます。

塔の先端まで登っているのですから、降りなければいけません。400段以上ある石の螺旋階段をひたすら降りていきます。目が回ります。

ついに、内部に入ります。外から見るごつごつとした雰囲気とは違って、写真で見た、いやそれ以上の真っ白な空間が広がっています。ここでも日本語

の音声ガイドを聞く事が出来るのでゆっくりと見学できますが、時間が足りません。やっと「魔法陣」を見つけた頃には、夕方になっていました。

カタルーニャ独立でゆれる「旧市街地」に移動して「カテドラル（サンタ・エウラリア大聖堂）」「カタルーニャ音楽堂」を見学後、「クアトロ・ガッツ」でピカソも愛した？ビールで乾杯します。

一度、ホテルへもどり夕食は老舗バル「エル・バス・デ・オロ」へ、カウンター席と座りにくい高い椅子がセットしてあるテーブル席だけの店で、地元のおっちゃん達がわいわいやっている中、何とか食事にありました。

3日目、少し遅めの朝食をとった後、バスツアーに参加します。バスに揺られて1時間「コロニア・グエル教会」に到着しましたが、なんと開館時間より早く着くという珍事件が発生。そこはスペインバルセロナ、ツアーガイドが開門を迫ります。まだ掃除機とモップをかけている中、ツアーの始まりです。

繊維工場を中心に工場で働く労働者の為の共同住宅、学校、商店、旅館、劇場、そして教会と見学することが出来ました。強い日差しの中、歩き疲れた体に「カヴァ」のサービスは元気が出ます。

再度、バスに乗り込み最終目的地「モンセラート」へ向かいます。登山鉄道に乗り換え山の上の「モンセラート修道院」に到着です。こんな山奥によく建設出来たなーと只々感心します。ここからはプレミアムツアーという事で、観光客がごった返す中、するりするりと抜け教会のバックヤードを見学です。



本物の司祭のローブ等ロッカールームにも入る事が出来ました。（ペットボトルの水は何に使うのだろうかーとか考えましたが…）ヨーロッパでもっとも古いといわれる「少年合唱団」の歌声をボックス席の様な場所からゆっくりと聞き、最後に教会にあ

る有名な「黒いマリア像」に拝顔しプレミアムツアーは終了しました。ここでは学食のようなレストランで、ランチを取ることが出来ます。

バルセロナ最後の夜は、タブラオ「エル・コルドバス」で、食事とフラメンコショーの観劇です。

ビュッフェスタイルで出される、たくさんのおいしい食事とおいしいお酒を堪能した後、別会場に案内されてショーの開始です。独特のリズムから始まるその歌と踊りはあっという間に観客を魅了します。店を出たのは、午後10時を回っていました。



最終日、昨夜のフラメンコショーの余韻で目が覚めます。チェックアウトをすましてからタクシーに乗り込み「カサ・カルベ」に到着、徒歩にてガウディが晩年連日のように通った「ゴシック地区」の「サン・フェリペ・ネリ教会」を探して路地を進みます。何度も同じ路地を迷いながらやっと見つけたその教会は、たくさんの銃弾の痕を残しそれでも静かに建っていました。

何とか「カテドラル通り」に戻り「ガウディ・エキシビジョンセンター」を見学します。ここではガウディの作品の解説や設計手法、現場の施工方法等が、写真・動画・模型・お土産物で確認することが出来ます。縁あって建築の道に進み、関連した本を読み、今回実際に現地に行って体感した事すべてを一気に復習する事が出来た場所でした。

あー楽しかった、ある熱帯夜の夢の話 Chao!

平成29年度 青年委員長会議参加報告

大分県青年委員長 首藤 顕道

去る3月3～4日の2日間に渡り、平成29年度全国青年委員長会議が開催された。青年委員長を拝命する前ではあったが、次期委員長予定者という立場で参加させて頂いた。

もちろん初めての参加であり、正直なところ何をしに行くのかもややあいまいなまま、とにかく東京へ向かい、会場の機械工具会館を目指す。

当然ではあるが、会場には47人の青年委員長と連合会役員の面々。勝手のわからないまま、とにかく決められた席についた。定刻の午後1時より開始。開会の言葉、綱領唱和に続き、連合会の安田委員長による主催者挨拶、三井所会長による会長挨拶が行われ、早速メインの企画であるワークショップが始まる。



今回のワークショップは『なぜ、建築士会なのか？～青年員会の方向性とあるべき姿～』と題し、有限会社ワイ・エー・エス代表取締役の中村泰彦氏を講師として招いていた。中村氏のワークショップは以前九ブロの青年女性協議会でも開催したことがあり、普段なかなか考えることのない視点でのもの見方が新鮮だったのを記憶していた。

6人程度のグループに分かれ、まずはウォーミングアップということで予備知識無しに『なぜ、建築士会なのか？～青年員会の方向性とあるべき姿～』についてテーマと3つの目標を設定する。

サイモン・シネック氏による「Start with why on TED」という動画を視聴。必要な部分を抜粋しての視聴で、人は「what」ではなく「why」に心を動かされるということ、アップルやマーチン・ルーサー・キング、ライト兄弟の事例を挙げて説明をしている。物事を考える時に「何を」からではなく「なぜ」から考えることが大切であり、人の心を動かすことができるという話は非常に興味深い内容であった。動画はWEBで公開されているようなので、ぜひ興味のある会員の方々には視聴してもらえればと思う。

「why」が大切であるということ学んだところで、最初に立てたテーマをブラッシュアップ。建築士会の存在目的、我々のアイデンティティを各グループ毎に提案し、それをさらに一つのものに集約した。議論をコーディネートしたのは鹿児島県建築士会の西野青年委員長。自ら挙手にて名乗りを上げ、拍手喝采であった。



次にグループ毎にドミノを作る。ドミノ以外にもハサミやスチレンボード、糸などの材料が与えられ、できるだけ時間のかかるドミノを作るのが目標であった。途中で止まってしまうグループや、アクロバティックなギミックを作成するグループもあり、この日一番の盛り上がりを見せた。このアクティビティで学ぶべきことは役割分担、目標や方針の共有、リスクマネジメント等。ドミノという非常に単純な遊びを通して、組織としての考え方を感ずることができた。

初日の会議はここで終了となり、懇親会へ向かう。立食のパーティー形式で開催され、多くの青年委員長と懇親を深めた。全国の青年委員長達とつながり、それを感じられる瞬間がやはり建築士会の最大の「why」であろうと感じた。何故か飲むと急に体育会系のノリになるのは全国の建築士会共通なようである。

二日目は午前9時より開始。

まずはワールドカフェ形式で自分のグループ以外のグループのテーマについて議論を深める。キーワードを出しつつ、「我々の創出価値とは何か」を考える。



その後「where」（我々はどこに行くのか）というステップに進む。建築士会青年委員会としてどこへ向かうのかという議論から「10年後のビジョン」へと発展していく。次世代の教育、建築士の認知UPという意見から建築士バッヂを作り責任と誇りのシンボルとしよう、という案まで出された。

最終的に「責任と誇りを胸に現在と将来の安心を地域に提供することで社会的信頼を獲得する」とまとめられたところでワークショップは終了となった。

ワークショップ終了後にはYoutubeを活用したPRのポイントについての解説があった。「建築士会チャンネル」を作成し、それぞれの活動をUP、音楽や肖像権についての許可、委員長会議での活用といった点について連合会の稲見委員より報告があった。

最後に安田委員長から閉会の挨拶があり、集合写真を撮影して会議は終了した。



今回、初めて全国青年委員長会議に参加し、多くの出会いと多くの学びがあったと感じている。また、建築士会という組織や運営というものがどのように行われているのか、青年委員長という立場になって初めて見た部分もある。

連合会役員をはじめ各県の青年委員長はパワフルな人材ばかりで、出会うことができたことへの喜びと共に、自分自身は努められるのだろうかという若干の不安も抱いた。この全国の仲間と共に研鑽していければと思っている。

ワークショップを通して建築士会を考えるという手法はなかなか楽しく、普段とは異なる見方や議論ができたのは大変よかった。もちろん今回出した案は何を決定するものでもないが、そこに至るまでのプロセスが非常に重要であったと感じている。

日程や時間の都合もあると思うが、願わくばワークショップだけではなく、実際の活動等について議論する時間があるとよりよいのではないだろうか。

来年も全国の仲間達と議論を深め、交流できることを楽しみにしている。

第28回 全国女性建築士連絡協議会 報告 「未来へつなぐ居住環境づくり」

～ 一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端 ～

平成30年7月28日(土)・29日(日) 於：高知県 高知県立県民文化ホール (出席者約300名)

青年女性委員 共同代表 高橋由美

今回の協議会は、高知県高知市で開催されました。大分県から3人で参加しました。

■委員長会議



全国から各県1名の委員長が参加する委員長会議です。会議では、「魅力ある和の空間ガイドブック(WE B版)」制作の進捗報告がありました。ガイドブックは、約150の事例が紹介され、9月に女性委員会ホームページで掲載されるとのことです。

また、各県ごとに1年間の活動報告が行われました。

■連絡協議会 開会式

○開会式

1日目は、被災地の現状報告と基調講演がありました。開会式は三井所会長の挨拶から始まりました。



○被災地の現状報告

・宮城県建築士会

「東日本大震災復興事業としての防潮堤について思うこと」

東日本大震災の津波は、三陸沿岸の地域に大きな被害をもたらしたため、津波対策の防潮堤に目を向け、三陸沿岸の5地域についての紹介や、国が進める復興事業について思うことを述べられました。

・福島県建築士会

「ふくしまの現状」

東日本大震災から7年経過した福島の現状報告です。あの事故から7年ではなく、事故は続いているとのことでした。避難者数は、ピーク時より減少しているが、未だ多くの方々が県内外で避難生活を続けている現状のようです。福島建築士会が実施した放射線についてレクチャーや放射線測定などの活動が紹介されました。原子力事故による福島の復興の歩みはゆっくりであるが、少しずつ進んでいるとの報告でした。

・熊本県建築士会

「被災地だから 今だから伝えたいこと」

今年度、熊本で開催された九州ブロック研究集会「建築士の集い」の紹介により、被災地の報告です。研究集会では、参加者に地震から2年が経過した現況を実際に見ていただき、被災または支援を経験したパネリストに「今だから伝えたいこと」を発信していただいたとのこと。今後の災害対応に少しでも貢献できればとの思いで、発信内容を報告されました。

・大阪府建築士会

「大阪府北部地震での建築士会の対応について」

6月18日に起きた大阪府北部地震の被害状況と大阪府建築士会の対応についての報告です。大阪府建築士会では、地震当日から応急危険度判定の実施を対応したとのこと。また、被災者への説明資料「地震被害調査の流れ」の作成や、建物に関する相談

を電話対応したとのこと。電話相談は、ブロック毎に関する内容が多く寄せられたとのこと。

○基調講演

「未来へつなぐ住居環境づくり」
～一周おくれで先頭に 伝統こそ最先端～
講師：山本長水建築設計事務所
主宰 山本 長水 氏

地域に根付いて発展を遂げてきた土佐の木造建築についてのお話でした。山本氏が設計した建物の説明で、木造建築の可能性を知ることができました。



○大交流会

大交流会は、各ブロックから2県の活動紹介や近況報告、最近きになる話題を報告する「1×1（ワンバイワン）」があり、九州ブロックは、福岡県と佐賀県が発表しました。会場内は、高知県の郷土料理である鱈のたたきや皿鉢料理を頂きながら他県と情報交換というお喋りで盛り上がりました。



○夜のエキスカッション

夜のエキスカッションはいわゆる二次会のことで、高知県建築士会のディープな方々に案内していただ

きました。場所は高知市繁華街の居酒屋「追手筋宴舞堂」で、高知のお酒と郷土料理、よさこい演舞を堪能しました。ここでは、高知県建築士会の方々と交流することができました。

○分科会

2日目は、8つのテーマの分科会が行われました。今年、「防災への取組み」、「建築女子がきづく未来」、「歴史的建造物と建物再生」、「会員拡大に向けた取組み」、「自治体連携とまちづくり」、「地産材」活用の取組み、「高齢社会と住まい」、「既存民家の活用」がありました。



私は、協議会では初めてのテーマ「建築女子がきづく未来」に参加しました。この分科会は、大阪府建築士会による、女性委員会30周年記念事業として建築関連の女性100名が集まって行ったワークショップの報告と、実際に参加者がワークショップを行うというものでした。ワークショップは、「なぜ建築にかかわっているのか」「建築女子が活躍するために必要なものは？」「建築女子が考える魅力的な社会・都市・建築・まち」をテーマに、異なる職域や立場から思うことを語り合い共感することで、みんなで元気を共有するというものでした。各テーマでは、活発な意見交換ができ、元気をもらうことができたと思います。

■最後に

今回の全国女性建築士連絡協議会（以下、全建女）では、他県との交流が多くできたと感じます。被災地の現状や、他県建築士会の活動、木造建築の可能性等を知ることができたので参加して良かったと思います。高知建築士会の方々の手厚いおもてなしにとっても感謝しております。

次回第29回は平成31年7月13日(土)・14日(日)に東京で開催されます。全建女は大変勉強になります。女性建築士のみなさん、東京へ一緒に行きましょう！

大分支部 首 藤 顕 道

第4回おおいた建築セミナー in 大分

去る2月10日に第4回おおいた建築セミナー in 大分が開催された。サマーセミナーとして永く開催されてきたイベントも今回で4回目の開催となる。

今回のテーマは『まち！みち！けんちく！』。大分支部で取り組んできた『魁！！リノベ塾』※の拡大版としても企画され、改修工事中であった大分銀行赤レンガ館大ホールにて開催した。

来賓には都市環境デザイナーの中野恒明先生（芝浦工業大学名誉教授／株式会社アップル総合計画事務所代表）をお招きし、『街のにぎわいを取り戻す～空洞化した欧米諸都市の中心市街地はどうやってよみがえったか～』というテーマで基調講演を頂き、同じく来賓の佐藤誠二先生にコーディネーターをお願いした。



中野先生は、門司港レトロをはじめ多くの都市計画に携わっておられ、海外の都市計画にも大変造詣が深い方である。また、大分市の都市計画にも関わりのあるとのことで、これからの大分のまちがどうあるべきかのヒントを必ず得られると思われ来賓としてお越し頂いた。

基調講演では、これからの中心市街地において重要なキーワードの一つとして「まちなか居住」を挙げられた。そのために最も必要なことは市民の意識改革である。道路や公共施設等、戻りたいと思える

居住環境を整備し、市民に「まちに戻ろう」と思わせることが大切である。

また、近代都市計画は用途地域による「ゾーニング」によって形成されており、商業・工業・住居と明確にエリアが分断されている。そのため、人口が減少し空間が余っているにも関わらず中心市街地は居住に適した整備がされていない。まちに市民が戻って来るためには、ゾーニングによる都市計画ではなく、多様な要素が混在するヒューマンスケールのまちである必要があると語られた。

さらには、「集中」させることもこれからのまちには必要である。現在は分散している公共施設や大学をまちなかに回帰させることにより、より居住に適した、より多様なまちになり得るとのことだ。実際に人口減少や市町村合併により、郊外では多くの公共施設やサービスが余りつつある。これらをまちなかに帰すことで、施設だけではなく行政の財政的な負担もまちなかに集中させることが必要なのではないかと感じている。

イギリスのチェスターの事例も興味深い。人口約8万人のまちであるチェスターではまちなみを保存するため、建物のカルテを作成することによって、なぜ人が住まないのか、残すべき建物であるのか、ということ判断するそうだ。これから人口が減少し、多くの建築空間が余るであろう日本では、我々建築士が担うべき責務であると感じた。

中野先生の講演を聴いて強く感じたことは、これからのまちは多くのものが混在したものでなければいけないということだ。商と住、車と人、公と民といった境をあいまいにし、人間にとってちょうどよいスケールのまちこそが魅力のあるまちになるはずである。もちろんそのためには用途地域をはじめとする法的な問題や、モータリゼーションの問題、何より市民の意識をどうまちなかに向けるかという最も大きな問題もある。

いずれにしてもまちを変えるということは一朝一夕にできることではない。中野先生のお話にもあったが、草の根からの積み上げが必要であり、我々の取り組んでいる『魁！！リノベ塾』がその一助となるような場でなければならないと感じている。

基調講演終了後の分科会は、テーマにそってそれぞれ「まち」コース、「みち」コース、「けんちく」コースの3つを企画した。残念ながら雨天のため「まち」「みち」コースは赤レンガ館での座学による開催となった。

「まち」コースでは、大分城址公園の府内城仮想天守イルミネーションについてや、アクアパークについての座学を行った。城址公園については大分市都市計画部の長野部長よりコンセプトのご説明を頂いた。アクアパークについては設計者の衛藤祐介氏より当時のいきさつの説明を頂き、いずれも大変興味深いものとなった。

「みち」コースでは、当日開催されていた中央通り歩行者天国の案内に加え、府内五番街、遊歩公園の成り立ちについて学んだ。いずれも馴染み深い通りにも関わらず、特に府内五番街と遊歩公園についての歴史については初見の事例も多く、遊歩公園をどうするかという議論が20年以上前にもすでにあったという事実は驚きであった。



「けんちく」コースでは、改修工事中であった大分銀行赤レンガ館の見学と大分SATYの減築工事の見学を行った。赤レンガ館は設計者である後藤悟氏からご説明を頂き、大分SATYは設計者である坪井一泰氏より解説を頂いた。歴史ある建築物の改修と中心市街地のシンボルのひとつである商業施設の減築という、まさにこれからのまちなかの建築の未来を示すような建築物を見学できたことは大変有意義であった。

セミナー後には大分リーガルホテルにて大懇親会も開催した。

井上会長から講評と乾杯の音頭を頂戴し、各支部

からは分科会報告も頂くこともできた。また、ベリダンサーによるアトラクションも大いに盛り上がり、懇親を深めることができた。

今回の建築セミナーは、あいにくの天気にも関わらず県内各支部から64名もの会員のご参加を頂いた。主催者として反省する点も多々あるが、ご参加頂いた会員の方々と、準備から当日の運営を担ってくれた大分支部の会員に心より感謝し、報告とする。

※『魁！！リノベ塾』

大分支部で取り組むリノベーションまちづくりのイベント。人口減少の時代に突入した時代における中心市街地の余剰空間にどのような価値を見出し、いかに活用していくかに主眼を置く。平成28年より開催し、今回が第10回となる。

別府支部 小山 秀輝

昨年度、別府市からの委託を受けまして別府支部で取り組んだ「別府市お試し移住施設「フロムーン別府ハウス」で別府に共感」について報告させていただきます。

【別府市の現状と経緯】

別府市では1980年（昭和55年）ごろをピークに総人口が減少しており、現在は11万8千人となっています。このまま推移しますと2060年にはピーク時から40%減少すると試算されています。この課題に対し別府市では総合戦略の中で施策を講じていくことがうたわれています。

また、平成25年の調査において、賃貸住宅なども含めて、居住者のいない住居が23%あり、管理されていない家屋は老朽化が進み、倒壊や火災の危険性、景観や治安、衛生上の悪化などが生じています。現在、別府支部は別府市と協定を結び、連携して問題解決に取り組んでいます。

このような問題のある別府市ではありますが、視点を変えて別府市の魅力という点で見ると、『2016市区町村魅力度ランキング』1000市区町村中第10位、『シティーブランド・ランキンガー住んでみたい自治体編-』では1741市区町村中第36位と高順位をつけています。これは別府の温泉という魅力が高く評価されているのではないかと思います。

そのような現状を踏まえ、別府支部は、建築士の知識を活かし、空き家をお試し移住施設にリノベーションする事業を、別府市から受託することとなりました。

お試し移住施設というのは、移住を考えている人達に、10日間以上滞在してもらい擬似移住体験をってもらう施設です。そこで、別府を堪能し共感してもらうことで、移住を決断してもらい、人口減少や空き家問題に歯止めをかけることを目的としています。

【フロムーン別府ハウス】

お試し移住施設事業ですが、そのネーミング「フロムーン別府ハウス」は、-FULL MOON- 心の幸福度を表す月がもっとも満ちている状態と、お湯

が満々と湛えられたフロ・別府温泉を掛けたダジャレです。

場所は別府市の楠町というところで、かつては九州の玄関口と言われた楠港という港があり大型の客船が入港していました。昭和初期ごろに旅館や商店が立ち並び、多くの旅人を迎えました。現在は、その機能を失いつつも、当時の面影を残す路地や、竹瓦温泉などの存在が、人と温泉の温かみを感じさせてくれます。その多くの旅人たちを迎えてきたこの場所で、移住を考えている人たちに別府を満喫してもらうことを目指し基本計画にとりかかりました。

現況のアプローチは空き家となってから管理が行き届いていない状態でした。玄関はアルミの引き戸で、居間は床の間のある8畳和室、寝室は出窓のある8畳和室で、すべてじゅらくのしん壁造りでした。浴室は、温泉の自噴の水位の関係でG.Lより下がって設けられています。

今回の空き家のリノベーション事業では基本計画、基本設計、実施設計、施工、耐震補強、備品購入など一式建築士会で行っています。構造は木造の平屋建て、規模は64.98㎡、用途は住宅を用途変更し簡易宿所となります。コンセプトは、大正から昭和初期の時代を偲ばせるデザイン、別府石を多用して地域性をアピール、お風呂はもちろん源泉掛け流しの温泉です。

改修後は、アプローチに別府石を敷き、外壁は白を基調とし、3連格子窓を設け、洋風と和風をミックスした擬洋風となっています。居間は既存の間仕切りを撤去しリビングダイニングの広い空間を造りました。床は県産材のむく材を使い人肌にやさしい温かみのある部屋となっております。寝室は居間と同様に白を基調とした広々とした洋間としました。玄関などの内部建具は昭和初期に建てられた浜脇高等温泉で使われていたデザインを採用し、当時のモダニズムを感じさせるものとしました。また、別府の伝統的工芸品である別府竹細工をシェードにした照明を置き、別府感を演出しております。浴室は床を天草石とし、壁を桧板張りにし温泉の雰囲気演出しております。また、正面の壁には、別府湾の壁画を描き、別府の情緒を楽しんでもらえます。

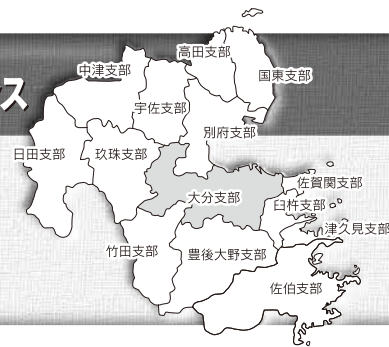
本施設は今年の2月から本格運用を開始しており、移住を検討している多くの方々に別府でのロングス

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生 年 平成4年生まれ
- ★勤 務 先 株式会社 大有設計
- ★趣 味 読書
- ★将来の夢、モットー等

はじめまして。株式会社大有設計 構造設計部の大下と申します。

地元は広島県で福岡県の福岡大学を卒業し今の職場に勤め始めて3年目となります。大分県歴も同じく3年目の新参者ですがこれからいろいろな所に出かけて、大分のことをたくさん知っていけたらと思います。

また今回建築士試験に合格し、士会に入会させていただきましたが、資格をとったことで気を緩めてしまわないようにしたいと思います。

資格を取ることがゴールではなく、今の自分がまだまだ未熟であることを自覚し、早く一人前の建築士であると認めてもらえるように日々努力していきたいと思っています。

これからよろしくお願ひします。



大下 紘輝 (大分支部)

- ★生 年 平成3年生まれ
- ★勤 務 先 大分市役所都市計画部開発建築指導課
- ★趣 味 テニス、カラオケ
- ★将来の夢、モットー等

初めまして、大分市役所開発建築指導課の真子（まこ）と申します。

大分市役所に勤め始めてあっという間に一年が経過し、まだまだ分からないことだらけの中、先輩方にご指導いただきつつ日々の業務をなんとかこなしています。

今後の目標ですが、様々な建築に関する知識を身につけ、地域貢献していきたいと考えています。建築士会を通じて、様々な分野の方々と交流させていただくことでより知識を吸収していければと考えておりますので、今後ともどうかよろしくお願ひ致します。



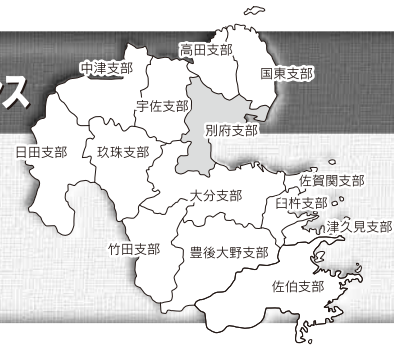
真子 洋一郎 (大分支部)

PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



- ★生 年 昭和56年生まれ
- ★勤 務 先 自営業 阿部建築
- ★趣 味 模索中
- ★将来の夢、モットー等

木造建築物の設計、施工業務を行っています。

昨年一級建築士試験に合格でき、これを機会に建築士会の入会を決めました。

建築士会では、さまざまな分野の先輩方との交流を通して今後の業務に生かせるよう自己研鑽していきたいです。

また、資格に恥じぬよう誠実に取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いします。



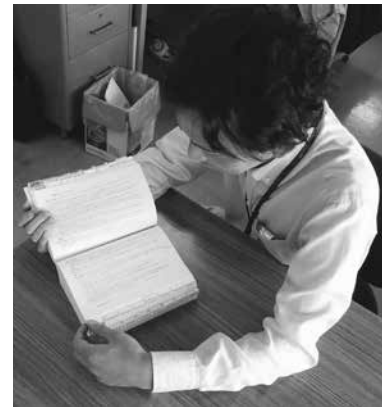
阿部 智樹 (別府支部)

- ★生 年 昭和53年生まれ
- ★勤 務 先 別府市役所
- ★趣 味 読書、ゲーム
- ★将来の夢、モットー等

現在、別府市役所建築指導課に勤めています。

建築士会の会員皆様におかれましては、普段より建築行政に多大なる貢献を頂き、厚くお礼申し上げます。

自身としまして、建築士会に貢献できるよう、これからも諸先輩方の指導を仰ぎながら活動させていただきます。



下嶋 明 (別府支部)

MY WORK

- ★建物名称 T様邸
- ★建築場所 大分県佐伯市船頭町
- ★用途 居宅
- ★床面積 159.60㎡
- ★構造 木造平屋建
- ★設計者 (有)御手洗設計
- ★施工者 谷川建設工業(株)
- ★設計趣旨

この場所には元々酒蔵の倉庫があった場所で、家の前も白い酒蔵だったのでその雰囲気をイメージして設計しました。



- ★建物名称 本城苑作業所 Beハウス
- ★建築場所 豊後大野市三重町秋葉
- ★建築主 社会福祉法人 紫雲会
- ★設計者 高野建設一級建築士事務所
- ★施工者 芦刈建築
- ★構造・床面積 木造平屋・447.83㎡
- ★用途 障害者就労支援施設
- ★竣工 平成28年2月

★設計趣旨

障害者就労支援を目的とした作業所として、障害者の利便性だけではなく、地域住民の方々との交流の場となるよう計画しました。

地域住民の方々が気楽に立ち寄れるよう加工品販売スペース及びテラス席を設け、外部のオープンスペースと連続させることによりイベント等が行えるようにしました。

障害者の利便性を考慮し、外部と内部を完全バリアフリーとし、施設利用者に親しみを持ってもらえるよう外部・内部共に、県産材の杉を利用しました。



MY WORK

- ★建物名称 N邸改修工事
- ★建築場所 臼杵市
- ★用途 専用住宅
- ★床面積 37.905㎡
- ★構造 木造平屋建
- ★設計者 現代建設(株)一級建築士事務所
- ★施工者 現代建設(株)
- ★設計趣旨

既存店舗を居宅への改修工事である。もともとの店舗面積 37.9 ㎡のなかで、コンパクトにリビング・キッチン・洗面・浴室・WC・子ども室2室をおさめるため、全体を1室空間ととらえることで計画した。そのため、間仕切りの高さも 2.2 mに押え、天井空間を一体とし圧迫感を感じさせないようにしている。削る工夫を考え抜いた改修である。





マーボの旅先日記^{その9}



会長 井上正文

沖縄の重要伝統的建造物群保存地区を訪ねて

沖縄は冬場の温暖な気候、のんびりした社会全体の雰囲気、本土では見られない文化・歴史・風土・文物など魅力満載です。こんなところに惹かれて、最近訪れることが度々です。ライフワークである国宝建造物巡りの対象物はありませんが、首里城を中心とした城（グスク）などからなる世界文化遺産や重要伝統的建造物群保存地区（伝建地区）など見るべきものが数多くあります。



今回は、それらのうち離島にある2カ所の伝建地区を紹介しましょう。ちなみに現在、全国には118カ所の伝建地区が存在しています。大分県では日田市の豆田地区と杵築市の北台南台地区の2カ所が伝建地区の指定を受けていることはご存知のことでしょう。

まずは、竹富島の伝建地区です。竹富島までは那覇から1時間ほどの空路で石垣島に飛び、さらに石垣港から船でわずか10分ほど。緯度的には台湾の首都・台北より南に位置する、まさに南の島です。ここは観光地としての知名度も高いのですが、島内には高層建物もなく、車の通行もまばらで、レンタサイクルや徒歩で、とても快適に動き回ることができます。特に、赤瓦の古民家群は本



土では見ることができない独特の景観を生み出しています。また、新築建物も景観に配慮した外観となっています。その一例として、竹富島郵便局をご覧ください。

来年の建築士会九州ブロック「建築士の集い」は、石垣島で開催される予定（2019年6月下旬）と聞いています。大分県からも大挙して参加しましょう。その折は是非、石垣島からこの竹富島にも足を延ばされることをお勧めします。

もうひとつの沖縄の伝建地区は渡名喜島にあります。渡名喜島はご存知ない方も多いかもしれませんが、那覇・泊港からフェリーで西へ2時間足らずの距離。但し、那覇からの日帰り可能日は金曜日のみで、それ以外の曜日は渡名喜島での宿泊が必要です。島内には魅力的な民宿もありますので、ここで満天の星空を眺めながら一夜を過ごすのも一興でしょう。ここの伝建地区は、竹富島のそれと比べて、訪れる観光客も少なく、昔ながらの素朴さも残っています。また、「ふく木並木」や「ふく木」に囲まれた古民家も一見の価値あります。

今回は、竹富島と渡名喜島の2つの離島の伝建地区を紹介しましたが、沖縄には魅力的な離島（久米島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島などなど）があり、それぞれに異なる自然環境や歴史・風土をもっています。これらの離島も沖縄本島各地に加えて訪れてみてはどうでしょうか。



BOOK My Best Book

マイベストブック

『天才』 著：石原慎太郎

宇佐支部 佐藤 一郎

本書は、著者である石原慎太郎が田中角栄を演じるという形で物語が進んでいく。

石原慎太郎といえば「青嵐会」の中心人物であり、当時の田中角栄を「金権主義」と鋭く批判した急先鋒であった。その石原がなぜ田中角栄を「天才」と評価するのか。また、彼の人生をどのように描くのかということに興味がありこの本を手にとってみた。

確かに田中角栄といえば「ロッキード事件」に代表されるように、悪徳な政治家のイメージが世の中に定着してしまっているが、日本全国に張り巡らされた高速道路や新幹線等のインフラを最初にデザインしたのはまさしく角栄であり、「日本列島改造論」という国土のデザインを形にし、日本の「高度経済成長」を牽引していくためには、彼の持つ天才的な才能と行動力が不可欠であったのは間違いないであろう。

この本を読んで田中角栄の人物像がよく理解できた。そして、彼の先を見通す力と人を動かす力はまさに天才的であったと実感した。

その天才的な力は時に反感を買い、多くの敵を作ってしまったのも確かではあるが、当時の日本にとって必要な存在であったのも間違いない。

著者は本書の中で角栄に以下のように語らせている。「政治家には先の見通し、先見性こそが何よりも大切なので、未開の土地、あるいは傾きかけている業界、企業に目をつけ、その将来の可能性を見越して政治の力でそれに梃入れし、それを育て再生させるという仕事こそ政治の本分なのだ。」

目先の利益に囚われ、大切なものを見失いつつある現代の世の中で、人の心を読み、人を動かし、国や官僚を動かす力を持った田中角栄のような政治家が再び現れ、良い意味で「コンピューター付きブルドーザー」となって世の中を駆け回ってくれることを期待したい。



『THE BOOK OF TEA』 著：岡倉天心

高田支部 後藤 憲二

海外で人気の新渡戸稲造著の「Bushido」から7年後の1906年にニューヨークで刊行されたのがこの本である。

当時、日本では西洋近代化が最高潮に達した時期で、日本人は西洋文化に憧れていたが、反面日本文化に対する西洋人の関心が薄かったために、天心がそれを憂いて出版したようだ。そのためか天心の存命中に日本語に翻訳されず、没後に天心の弟の弟子である村岡博によって翻訳された。

4章で茶室について書かれており、建築に携わるものとしては興味深いですが、書かれている生活をする上での心得につながるものが素晴らしく感じた。

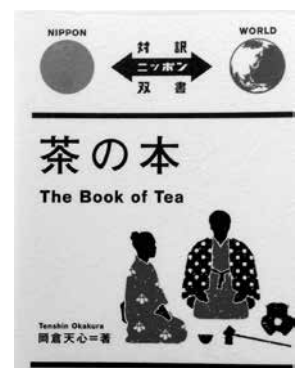
この世界に完成あるいは完成というものはあり得ない。逆に不完全であり、未完成であることによってその先に完全なり完成に向かって無限の可能性が開かれる。

おのれを虚にして他を自由に入らすことのできる人は、すべての立場を自由に行動することができるようになるであろう。全体は常に部分を支配することができるのである。

『不完全性の美学、虚の美学』完成に向かって努力し、自分を100%自分で構成するのではなく、自分自身にできる限り虚を保っていれば、相手を包み込み全体となることで部分もコントロールできる。こんな風を感じた。

武士道は、兵士が自らを犠牲にして戦う「死の術」に対して茶道は、「生の術」である。

読むほどに引き込まれる本である。



事務局だより

1. 委員会活動報告

総務委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○遅くなりましたが、「18会員名簿」を9月末にお届けすることが出来ました。ご協力ありがとうございました。 ○昨年度も実施しました会員増強月間を設ける予定です。詳細につきましては、別途お知らせします。 ○本年6月総会で実施しました永年会員表彰（40年又は35年以上で80才以上の会員）を、平成31年度総会でも実施予定です。
事業委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○会員の福利厚生事業として「支部対抗ボウリング大会」を来年1月か2月に開催予定です。昨年も80名近くの方が参加し、お互いの交流と親睦を深める催しになりました。是非、参加ください。日時は改めてお知らせいたします。 ○空き家等相談会（大分市行政協力）の開催。（11月と2月）
広報委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○士会HPの「会員所属事業所紹介・検索サイト」の第2期募集中（10/1～12/28）です。掲載料は、第2期募集分の申込者の今年度掲載料は無料です。詳しくは、事務局まで連絡ください。
調査研究委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○ヘリテージマネージャー育成&ステップアップ研修を開催中。第3回まで終了し、来年2月までにあと4回開催予定です。
青年女性委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○建築セミナー（佐伯支部担当）を1月末から2月初め頃に開催予定です。詳細は、改めてお知らせします。
試験・CPD・専攻合同委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○「増改築相談員」資格取得研修会を10月13日（土）に、開催しました。来年度も開催予定です。 ○7月1日に実施された二級建築士の大分県の学科試験結果は実受験者139名（全国19,557名）で合格者は54名（全国7,366名）、合格率は38.9%（全国37.7%）でした。 ○7月22日に実施された一級建築士の大分県の学科試験結果は実受験者174名（全国25,878名）で合格者は30名（全国4,742名）、合格率は17.2%（全国18.3%）でした。
防災委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度も昨年度に引き続き、「応急危険度判定模擬訓練」を実施予定です。今年度は、RC造で模擬訓練予定です。 ○「住家の被害認定調査技術者講習」も開催予定です。 ○現在すでに整備されている支部もありますが、各支部毎に「コンクリートブロック塀等の安全点検に関する相談体制」を整えています。ご協力をお願いします。

2. 講習会・研修会案内（11月以降）

監理技術者講習 （建設業法）	<ul style="list-style-type: none"> ○第2週の水曜日に、事務局会議室で開催しています。 ○11月以降は、11月14日（水）、12月12日（水）、1月9日（水）、2月以降も事務局会議室で開催します。
建築士定期講習 （建築士法）	<ul style="list-style-type: none"> ○11月以降は、12月13日（木）、平成31年3月13日（水）に大分市で開催します。

3. 会務行事案内

○11月26日（月）平成30年度第3回理事会 コンパルホール多目的ホール 15：00～

報告-1

□地域の歴史的建造物の保存・活用に係る専門家（ヘリテージマネージャー）育成&ステップアップ研修について

第1回

7月28日（土）午後1時30分からコンパルホールにて開講されました。

オリエンテーションが行われたのち、会員で大分HMネットワーク代表の芳山憲祐様ら「大分県ヘリテージマネージャーネットワークのこれまで・これから」と題しましてお話をいただきました。

引き続き、開講特別講演として、工学院大学理事長の後藤治先生から「歴史的建造物の保全・活用のための新たな仕組み」と題しましてお話を頂きました。

40名を超える参加者は、お二人のお話を熱心に聞き入っていました。

来年度には、文化財保護法の改正が予定され、ヘリテージマネージャーの役割が重要になり、活躍の場が増えてくるのお話でした。



第2回

8月23日（木）午後1時30分からコンパルホールほかで、41名の方が参加され開催されました。

第2回のテーマは、

1. 大分県の文化財建造物保全・活用行政の概要について
講師 大分県教育庁文化課 副主幹 今井貴弘 氏
2. 歴史的建造物の調査の基礎知識と大分市府内城宗門櫓解体修理工事について
講師 株式会社大分住宅研究室 代表取締役 芳山憲祐 氏
3. 現場見学（大分市府内城宗門櫓解体修理工事）
講師 同上 芳山氏



第3回

10月8日（月）午後1時10分からコンバルホールほかで47名の方が参加され開催されました。

第3回のテーマは、

1. 熊本地震被災文化財建造物の保存・修復事例報告
講師 大分HMネットワーク副代表 YO設計代表 養父信義 氏
2. 日本の伝統木造建築物～その空間と構法～
講師 東京藝術大学副学長 美術学部建築科教授 光井 渉 氏



報告-2

□「増改築相談員」資格取得研修会について

10月13日（土）午前8時30分から、大分職業訓練センターにて、19名の方が参加され開催されました。

これは、今後、建築住宅ストックの活用が求められ既存住宅流通におけるインスペクション等、住宅リフォーム、増改築の需要が高まりつつあります。このため消費者からの増改築相談に対応できる、信頼されるリフォーム工事、リフォーム設計事業者の方々のための資格取得の研修会です。

来年度も開催予定ですので、是非お申込みください。



大分県建築士会所属事業者 紹介・検索サイト掲載募集

設計者を探している、紹介してほしい。

リフォーム工事業者を探している、紹介してほしい。

耐震診断・改修工事ができる建築士、工務店を探している。

紹介してほしい。探したい。



二
次
申
込
受
付
中

- 運営は（公社）大分県建築士会が行います。
- 申込条件は、大分県建築士会員（正会員・準会員・賛助会員）が所属する事業者です。
- 申込期間 平成30年12月28日（金）締切（公開は来年1月予定）
- 検索画面（現在の検索画面をご覧ください）
http://www.oita-shikai.or.jp/kaiinsarch/member_search.php
- PC・スマートフォンでの公開対応。
- 掲載料は3,000円/年（税込）程度を予定 ～ 12月末までの申込者は今年度：無料
- 運営開始後の受付は随時できますが、登録は30日後の予定になります
- 申込時に事業所のHPの準備が間に合わない方は、PDF形式での事業所案内も対応できます。
- 申込みは、裏面の申込書を建築士会本部事務局あてにFAX又はメールで送付して下さい。

FAX：097-532-6635 メール：info@oita-shikai.or.jp

(公社)大分県建築士会所属事業者の紹介・検索サイト 申込書

* 下記項目の注意事項を参考にして記入し、建築士会事務局まで「FAX又はメールで」送付してください。

番号	項目	入力欄
1	申込み事業者名称	※必須入力、全角126文字以内
2	申込み担当者名 (建築士会会員・賛助会員であること)	ホームページには公開しません。
3	申込み担当者 連絡先電話番号	ホームページには公開しません。
4	事業所の地域	<p>本社機能のある地域を一つ選択して下さい。</p> <p>1.中津市 2.日田市 3.豊後高田市 4.国東市 5.姫島村 6.宇佐市 7.竹田市 8.九重町 9.玖珠町 10.杵築市 11.日出町 12.別府市 13.大分市 14.大分市佐賀関 15.豊後大野市 16.由布市 17.臼杵市 18.津久見市 19.佐伯市</p>
5	事業所の主な業務	<p>※必須入力、複数選択可 (プルダウン)</p> <p>1.設計 2.工事 3.リフォーム 4.その他(不動産、家屋調査等)の中から選択して下さい。</p>
6	<p>具体的な業務 (代表的な5業務を選んでください)</p> <p>(例に該当しないその他の業務については 11欄で補足してください)</p>	<p>※必須入力、下記より5つまで選択 (プルダウン)</p> <p>1.建築設計、2.構造設計、3.耐震診断、4.設備設計、5.積算、6.建築工事監理、7.建築施工図、8.建築企画、9.設計・施工、10.建築工事、11.土木工事、12.仮設工事、13.建築リフォーム、14.外壁工事、15.インテリア工事、16.屋根・防水工事、17.空調設備工事、18.給排水工事、19.電気設備工事、20.給湯設備工事、21.サッシ・建具工事、22.エクステリア工事、23.既存住宅状況調査(インスペクション)、24.不動産</p>
7	郵便番号 例)870-0045 半角8文字	
8	住所1 ※必須入力、全角126文字以内	
	住所2 ビル名等	
9	googlemap(グーグルマップ情報)	・掲載希望する ・掲載希望しない
10	ホームページアドレス (例) http://www.oita-shikai.or.jp/	
11	<p>業務の補足説明</p> <p>(6欄の具体的な業務内容で説明しきれない業務がある場合に補足説明してください)</p>	具体的な業務の補足コメントを30文字程度で記述してください。
12	<p>自社紹介PDFデータの掲載</p> <p>(ホームページを開設していない場合)</p>	<p>ホームページを開設していない場合で、会社情報もしくは、会社の概要のわかるチラシ等のPDFデータの掲載が可能です。別途PDFデータを送付してください。</p> <p>・有 (PDFデータを別途送付する) ・無</p>

<p>お問い合わせ先 公益社団法人 大分県建築士会事務局(大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3階)</p> <p>TEL/FAX 097-532-6607 / 097-532-6635</p> <p>メールアドレス info@oita-shikai.or.jp</p>

建物状況調査業務に起因する 損害賠償請求に備えて

会員
限定

宅地建物取引業法の改正に伴う 既存住宅状況調査技術者 団体賠償責任保険制度

不測の事態への 賠償資力を確保するために

2018年4月1日より施行されました宅地建物取引業法の改正に伴い、既存住宅状況調査技術者が実施する建物状況調査業務に対応した「既存住宅状況調査技術者団体賠償責任保険制度」を創設いたしました。



加入資格 建築士会会員が経営・勤務または所属(注)する事務所であること

被保険者

- (1) 建築士会会員かつ、「既存住宅状況調査技術者」が経営または勤務・所属する事務所(記名被保険者)
- (2) 記名被保険者の役員および使用人
- (3) 記名被保険者に所属する「既存住宅状況調査技術者」
- (4) 記名被保険者の建物状況調査業務を再委託で引き受けた建築士事務所
- (5) (4)の役員および使用人
- (6) (4)に所属する「既存住宅状況調査技術者」

(注) 所属とは、建築士が建築士法に基づく建築士事務所に属することをいいます。

保険金をお支払いする主な事件事例

- 住宅の買主は、購入予定物件の建物状況調査を調査員に依頼したが、内壁に酷い劣化があったにも関わらず調査員はその劣化を見落としてしまった結果、適切な売買価格よりも高い価格での売買契約が成立してしまった。住宅購入後、当該劣化状況が明らかになり、買主から劣化を見落としたことに対し損害賠償請求を受けた。
- 建物状況調査業務の検査中に誤って依頼主や通行人にケガを負わせてしまい、治療費等の損害賠償請求を受けた。
- 建物状況調査業務の検査中に誤って、住宅の窓ガラスを破損してしまい、修理費等の損害賠償請求を受けた。



このチラシは「宅地建物取引業法の改正に伴う既存住宅状況調査技術者団体賠償責任保険制度(既存住宅状況調査業務特約条項等付帯専門的業務賠償責任保険)」の概要についてご紹介したものです。保険の内容は「宅地建物取引業法の改正に伴う既存住宅状況調査技術者団体賠償責任保険制度」のパンフレットをご覧ください。詳細はパンフレットに記載の保険約款によりますがご不明の点がありましたら、下記までご連絡ください。なお、保険の内容につきましては、取扱保険代理店よりご案内させていただきます。

公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館 5階
TEL:03-3456-3273 FAX:03-3456-2067
<http://www.kenchikushikai.or.jp/>

〈お問い合わせ先〉

取扱代理店 **株式会社 エイアイシー**

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-3-8 丸増麹町ビル 2階
TEL: 03-6272-6206 FAX: 03-6272-6209

引受保険会社: (幹事) 東京海上日動火災保険株式会社・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社

2018年7月作成
18-T03276

ご存知ですか？ 免許の提示義務

●建築士免許証等の提示の義務化（建築士法第19条の2）

近年、建築士免許証の偽造によるなりすまし事案が発生していることなどから、建築主への建築士に対する情報開示の充実が求められています。平成27年6月25日に施行された建築士法の改正では、建築士は、委託者（これから委託しようとする者も含む）から求めがあった際、建築士免許証又は建築士免許証明書を提示することが義務づけられています。

建築士免許証等については、携帯の義務までは課せられていませんが、求めがあった際にその場で提示できない場合は、次回の打ち合わせ時に提示するなど誠実な対応を行なう必要があります。

●重要事項の説明等（建築士法第24条の7第2項）

管理建築士等は、建築主と契約前に重要事項の説明をするときは、当該建築主に対し、建築士免許証又は建築士免許証明書を提示しなければなりません。



免許の提示を求められた場合、携行可能なカード型免許証明書が便利です。

■ カード型免許証明書は・・・

ICチップ内蔵により、
偽造・変造が極めて困難です

顔写真入りで、
契約時の信頼性が高まります

自動車運転免許証と
同じサイズで携帯に便利です

※二級・木造建築士免許証は、都道府県により異なりますのでご注意ください。

カード型免許証明書の裏面には、 法定講習受講履歴を記載することができます。

■ 建築士免許証等の記載事項等に変更があった場合の書換え規定の明確化 (建築士法施行規則第4条の2第2項)

氏名・生年月日以外の記載事項等（定期講習の受講履歴や顔写真など）について変更があった場合に、建築士免許証等の書換え交付を申請することができることが規定されました。書換え交付を申請すると新たな建築士免許証明書が交付されます。

なお、氏名等に変更があった場合は、従来どおり、変更があった日から30日以内に届出を行い、併せて建築士免許証等の書換え交付申請をすることが義務づけられています。

講習受講履歴		
講習の種類	修了年月日	修了証番号
定期	平成00年00月00日	012345-6789012345
定期	平成00年00月00日	012-34-567890-12
管理	平成00年00月00日	0123-456789

※二級・木造建築士免許証の書換え交付申請については、指定登録機関または、登録都道府県にお問い合わせください。



中央指定登録機関
(公社) 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 TEL: 03-6436-1401

広報委員

担当常務理事 〈大分〉 宮 崎 隆 博
委員 長 〈別府〉 籠 田 真一郎
委員 〈高田〉 清 末 幸 生
〈大分〉 後 藤 悟 明
〈津久見〉 濱 野 一 明
〈佐伯〉 志 賀 智 昭
〈日田〉 佐 藤 敏 孝
〈中津〉 松 山 桂 嗣

編集委員

担当常務理事 〈大分〉 宮 崎 隆 博
委員 長 〈高田〉 後 藤 憲 二
委員 〈大分〉 佐 藤 啓 之
〈大分〉 高 橋 大 介
〈大分〉 丹 生 孝 太
〈大分〉 野 村 卓 矢
〈別府〉 小 山 秀 輝
〈臼杵〉 佐 藤 暢 彦
〈津久見〉 竹 田 光 徳
〈佐伯〉 長 田 孝 治
〈佐賀関〉 井 上 雅 順
〈豊後大野〉 伊 東 勇 治
〈竹田〉 江 上 禎 一
〈玖珠〉 白 地 泰 憲
〈日田〉 伊 藤 照 幸
〈中津〉 松 山 桂 嗣
〈宇佐〉 古 市 憲 司

建築士おおいた

2018.10 No. 121

(非売品)

平成30年10月30日 印刷

平成30年10月30日 発行

編集／発行所

公益社団法人

大 分 県 建 築 士 会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 富士火災大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

印刷所／いづみ印刷株式会社

大分市高江西1丁目4323番25号 TEL (097) 535-8655

建築士

おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0625	豊後高田市水取 334 番地 2	0978-22-2216
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0919	別府市石垣東 1 丁目 9 番 31 号 (株)幸建設内	0977-23-6231
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 富士火災大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0023	臼杵市大字江無田 131 番地 1 (株)高橋設計内	0972-62-4213
津久見	879-2442	津久見市港町 7-22 一級建築士事務所 たかせ ao 内	0972-82-1203
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-22-5008
豊後大野	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 1922-1 2F 高野建設一級建築士事務所内	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0026	日田市田島本町 4-1 野村一級建築設計事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-24-3597
宇佐	879-0453	宇佐市上田 931-3 宇佐建設会館内	0978-33-3395
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を！

～会員二人で、一人の入会勧誘を～



公益社団法人 大分県建築士会